

2. 温 室 効 果 ガ ス 関 連

資料２ ごみ処理施設稼働による温室効果ガスの予測条件

ごみ処理施設の活動量は、メーカーアンケートの結果等に基づき、下記に示す条件を踏まえて設定した。

活動量の設定に係る条件は表2-1、2に示すとおりである。

表2-1 ごみ処理施設の稼働に伴う活動量（廃棄物の焼却等）

区 分	廃棄物量 ^{注1)} [湿り (t/年)]	廃棄物量 ^{注2)} [乾き (t/年)]	廃プラスチック の割合 ^{注3)} (%)	廃プラスチック量 [乾き (t/年)]
家庭系ごみ	88,803	70,997	28.5	20,234
事業系ごみ	40,518			
破碎可燃残渣	3,883	-	-	-
破碎不燃残渣	2,515	2,515	12.5	314
焼却主灰	12,960	-	-	-
合計	148,679	-	-	20,548

注1) 平成38年度の推計値。

注2) 廃プラスチック算出にあたり、廃棄物量の乾き重量は、家庭系ごみ・事業系ごみは平成27年度の市内3清掃工場の平均値（水分量45.1%）、破碎不燃残渣は水分量0%を用いて算出した。

注3) 家庭系ごみ及び事業系ごみについては、平成27年度における市内3清掃工場の平均値。破碎不燃残渣については平成21～26年度の測定実績の平均値。

表2-2 ごみ処理施設の稼働に伴う活動量（電力、副資材）

項目	単位	活動量		備考
		対象計画案		
		i 案	ii 案	
発電電力量	kWh	108,864,000	91,392,000	280 日×24 時間×3 炉、 基準ごみ
購入電力量	kWh	669,600	648,000	9 日×24 時間
場内使用電力量	kWh	32,256,000	26,208,000	280 日×24 時間×3 炉、 基準ごみ
コークス使用量	t /年	9,900	0	—
都市ガス	m ³ /年	370,000	570,000	—

